

2005年10月11日

淀川水系流域委員会様

意見書

私は川上ダム早期着手を強く望み、昨年開催された「淀川水系河川整備計画策定住民対話集会」でのディスカッションに参加させていただき、又国土交通省への「川上ダム早期着工の要望書提出」にも参加し、我が伊賀市の治水・利水環境を少しでも改善される事を願っております一住民です。

今審議されている「川上ダム建設計画」については、早期着手の報を2005年7月1日付けの新聞でも確認いたし夢が実現に向けて歩みだしたと喜んでおりました。

しかしながら風の便りで、今だ強い反対意見が出ていると聞きます。同じ論争をいつまで繰り返せばいいのですか、今まで重ねてきた論議は何だったのですか、ダムが完成すれば埋没する地域の転籍した方たちの思い、大雨が降ればいつも洪水の恐怖と戦っている地域の思い、伊賀市の20%以上を占める上水道未給水地域・小規模で不安定な水源で生活する簡易水道地域、これらを解消していくことが『街創り』では無いでしょうか。

上水道未給水地域の住民も、各種税金を納めています「平等の原則」は無いのでしょうか。

反対意見をよくよく聞いていれば、自分たちの地域は治水・利水が確保され環境が整っているために臨場感が無く、環境問題を盾に反対（何でも反対）しているとしか聞こえてきません。

つきましては、上水道未整備地域の声として『川上ダム工事の早期着手』を切にお願いいたします。

伊賀市

柿本博文